

「地域における決済情報等の利活用に係る調査」 概要ご説明

凸版印刷株式会社
TIS株式会社
デロイト トーマツ リスクサービス株式会社

本事業に関する位置づけ等は下記のとおりです

はじめに

1

- 本プロジェクトは、QRコード決済を用いた「地域における決済情報等の利活用に係る調査」の実証となります。
(現段階で情報銀行の実証として実施している内容ではありません)

2

- 将来的には、情報銀行で活用されるデータの中にコード決済データが入ることも視野に入れております。
- 具体的な検討は今後実施予定となります。

3

- 本事業は、上記取り組みの第一歩として、現時点であまり生成・活用されていない、QRコード決済データの利活用のユースケースについて実証したものでございます。

本資料における用語の考え方等は下記のとおりです

本資料における用語の考え方

- 本事業は、現金、カード、電子マネー、ポイント、QRコード決済等のうちQRコード決済に関する事業のため、下記の用語に関する考え方等は下記のとおりとなります
- これらの考え方については検討中の要素を含みますが、引き続きWBSに則り、検討を進めて参ります。

✓ 決済データ

コード決済で発生するデータを指します。下記はガイドライン作成に向け検討中の想定となり、本事業では取得しない内容も含まれておりますが、例示として記載致します。

＜想定例＞

- ・決済事業者：決済金額、時間、場所、その日の決済頻度 等
- ・店舗：購買（明細）データ、割引有無、セール品・特価品区分、棚割り 等
- ・利用者：属性情報、行動データ（クーポン発行、アプリ起動、閲覧履歴等） 等

✓ 決済事業者

コード決済事業者を指します。

目次

1. 本事業の全体像について
2. 3地域におけるモデル実証事業について
3. 他地域における決済情報等の利活用にかかるガイドライン等の作成について

1. 本事業の全体像について

本調査では、3地域にてモデル事業を実施し仮説を検証する。その結果を踏まえデータ利活用の基盤を整えるためのガイドライン、運用ルール等のガイドラインを作成する

本事業の全体像

- QR決済のデータの利用価値を明確化することで、店舗に長期的なキャッシュレス決済のメリットを感じてもらう
- モデル事業を踏まえガイドラインを策定することで、その他地域への汎用的な横展開を実現可能とする

決済情報等を地域で利活用するためのモデル事業

事業実施地域の選定

地域の特色と過去の取組実績に基づき、モデル事業の実施地域として、和歌山県田辺市、埼玉県秩父市、福島県会津若松市を選定した

モデル事業内容

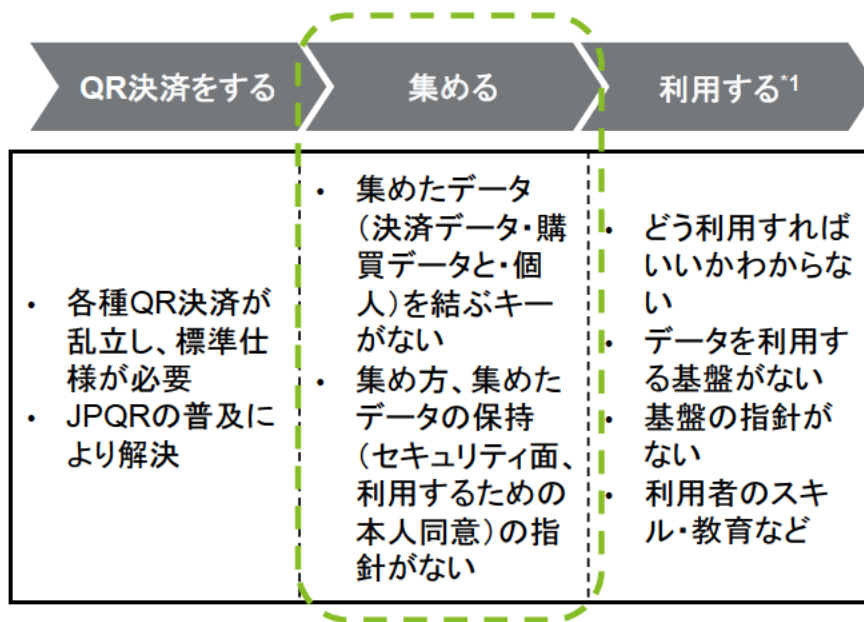
地域における決済情報の利活用に向け、決済情報の発生源である3つのプレイヤーのデータを統合する。自治体・公共機関を加えた計4つのプレイヤーが統合データを活用し、有効な利活用のモデル事業を実証する



決済情報等の利活用にかかるガイドライン等の作成

- ・ モデル事業にて仮説を検証し、横展開が可能なガイドラインを作成する
- ・ 検証結果を踏まえ、仮説に工夫が必要な場合は、それらの状況を踏まえて横展開の指針を作成する

課題と作成するガイドラインのスコープ

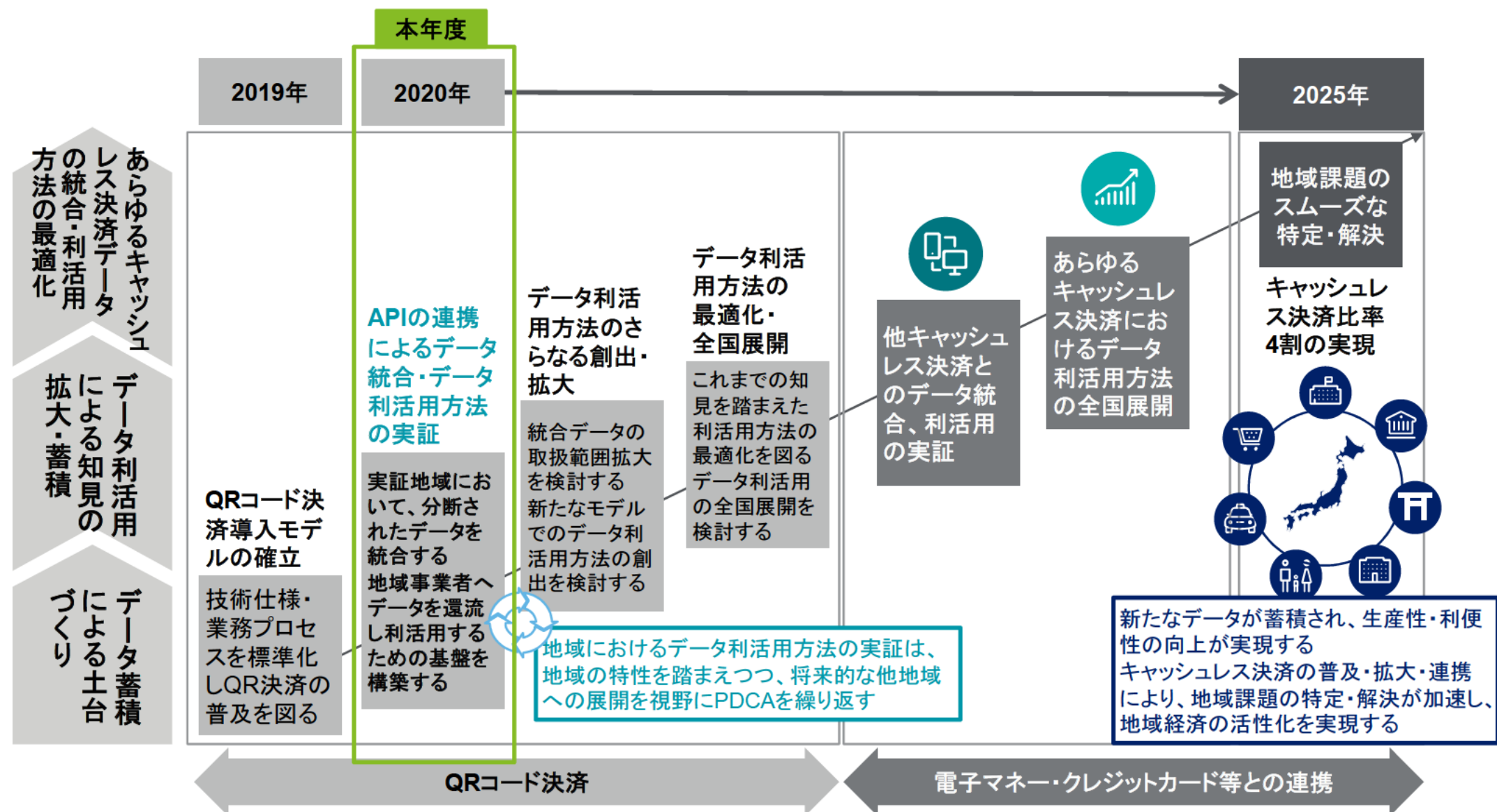


成果物

- 最終報告書
- ・ 決済情報連携（決済事業者）API等標準仕様ガイドライン
- ・ 決済データ取得・利用ガイドライン

キャッシュレス決済の拡大に向け、本年度はデータ利活用の土台となるデータ統合および、その利活用に向けた汎用的なモデル事業の実証・ガイドライン作成を実施する

本事業を通じたキャッシュレス決済の普及拡大イメージ



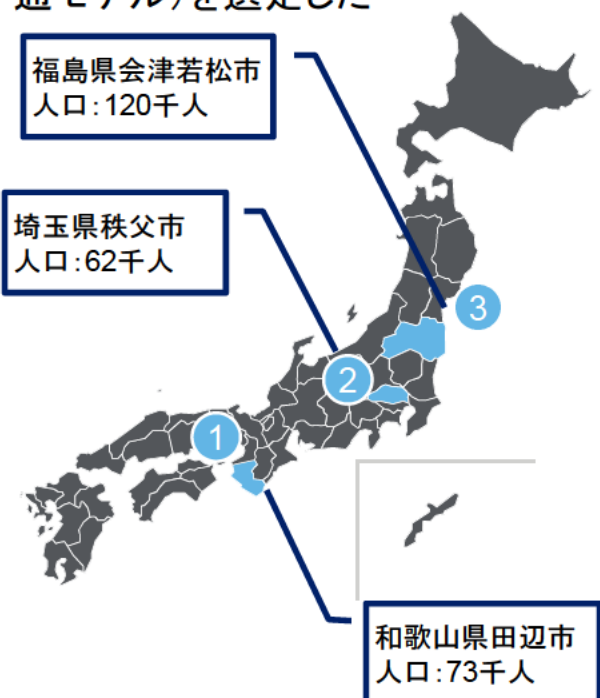
2. 3地域におけるモデル実証事業について

地域経済の活性化に向け、決済事業者・店舗より決済・購買情報を取得し、その情報を利活用するためのモデル事業を実施する

モデル事業の全体像

事業実施地域の選定

地域の特色と過去の実績に基づき、モデル事業の実施地域として和歌山県田辺市（買い物難民モデル）、埼玉県秩父市（観光・リゾートモデル）、福島県会津若松市（地域交通モデル）を選定した



モデル事業の概要

モデル事業は地域における長期的なインセンティブ創出につながる事業設計とし、事業目的は下記3点である

- 1) 経済活性化（決済事業者・店舗）
- 2) サービス・利便性の向上（利用者）
- 3) 社会課題の解決（自治体・公共機関、利用者）

地域における決済情報の利活用に向け、決済情報の発生源である3つのプレイヤー（決済事業者・店舗・利用者）のデータを統合する。自治体・公共機関を加えた計4つのプレイヤーが統合データを活用し、有効な利活用のモデル事業を実証する



各地域課題を踏まえ、課題解決後のあるべき姿を設定した。本事業を機として具体的なデータ利活用方法について検討を行う

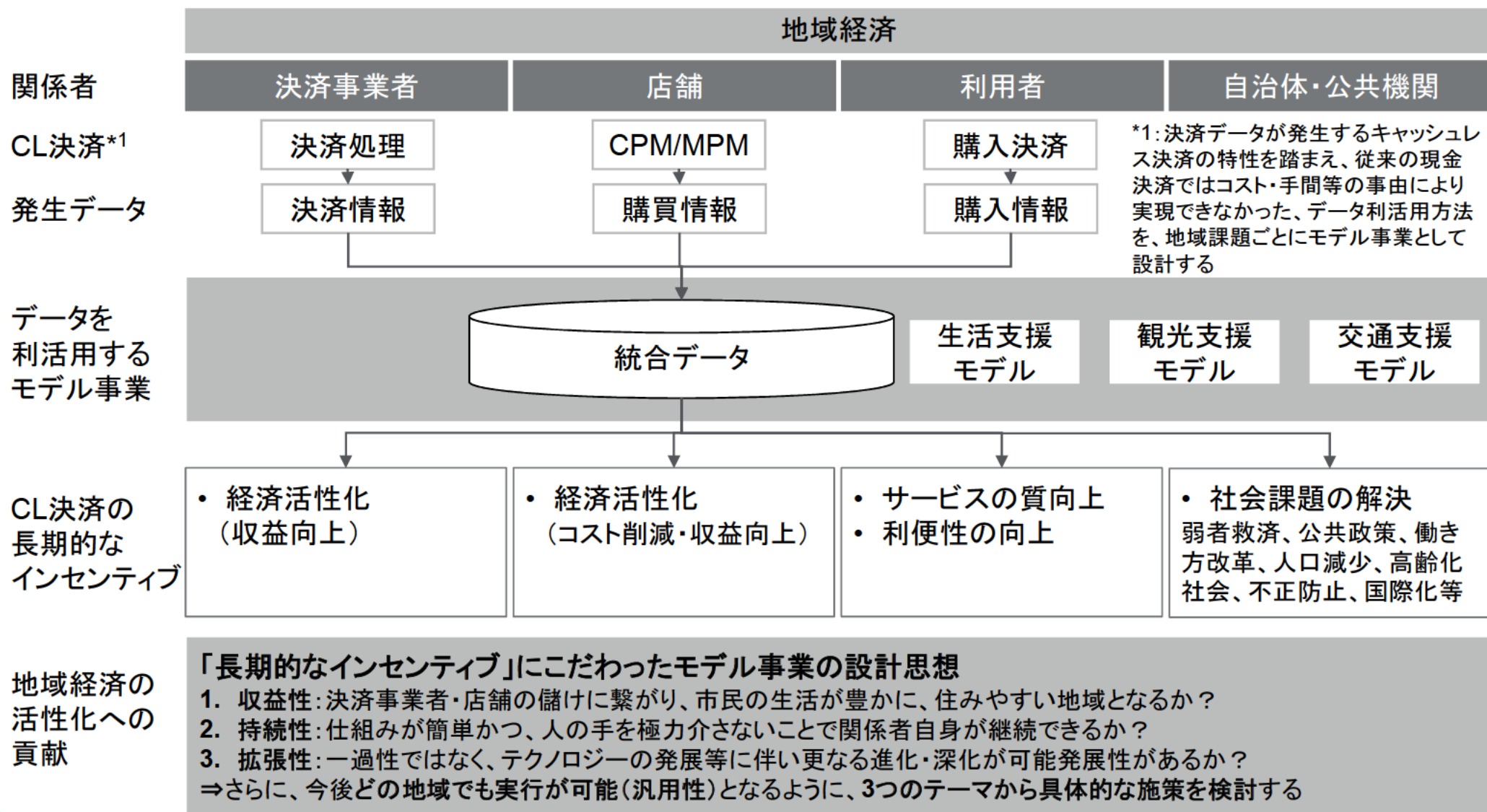
データ利活用方法と目指す姿

		生活支援(和歌山)	観光支援(埼玉)	交通支援(福島)
地域の課題 (仮説)		- 今後深刻化が明白な買い物難民課題に対策を具体化できていない - 潜在的な買い物難民候補を見える化し、各種対策案の実現可能性を早期に検討する必要がある	- 観光資源に訪れた人に周辺店舗に立ち寄って頂き地域活性化につなげたい - 観光資源に訪れた人の周辺経済への効果が把握できていない、また呼び込むための仕掛けも持っていない	- 地域交通の持続可能性の観点より、自家用車以外の地域の交通手段を強化する必要がある - 相乗りタクシー等スモールスタートできる交通手段でビジネス化成立の可能性を測りたい
データ利活用方法	対象データ	利用者個人毎に紐づけられたデータ 1. 買い物バスの乗車情報 2. スーパーでの購買の決済データ及びPOSからの購買明細 3. 各種解決策への要望を問うアンケートデータ	利用者個人毎に紐づけられたデータ 1. 観光資源での決済情報 2. 周辺店舗への決済情報を含む立ち寄り情報 3. 観光客の利用者属性情報 4. 周辺店舗の属性情報	利用者個人毎に紐づけられたデータ 1. 相乗りタクシー(交通手段)での決済情報・行先情報 2. 相乗りタクシーに乗る前の長距離バスの情報 3. 長距離バス発着地近辺での決済情報(券売所・売店等)
	データ取得方法 ^{*1}	紀州財布アプリにてQR決済、買い物バスチケット、個人属性情報を一元的に取得する。実証後アンケートは、アプリを用いず取得する	秩父財布アプリにてQR決済、来店情報、個人属性情報を取得し、周辺店舗マッチングを一元的に取得する	会津財布アプリにてQR決済、タクシー配車情報、クーポン利用情報、長距離バスの情報、店舗での決済情報等を一元的に取得する
あるべき姿 (課題解決後)		①潜在的な買い物難民を特定できる ②買い物難民候補の各種解決策への要望を把握できる ③買い物難民候補の購買傾向の情報より各種解決策実施を具体的に検討することができる	①観光資源に訪れた人の周辺店舗への立ち寄りの動態が把握できる。今後の観光資源の強化や周辺店舗の増強など、活性化に向けての打ち手がみえる ②周辺店舗の属性情報を地域で充実させ、来店予測の精度を向上する仕掛けを地域として持つことができる	①相乗りタクシーの利用促進に決済情報が貢献できるかを検証 ②相乗りタクシーにおける配車最適化に決済情報が貢献できるかを検証 ③相乗りタクシーの用途分析に本実証のアウトプットデータが貢献できるかを検証

^{*1}: 決済データの取得方法として、スマホやPCの家計簿アプリ(決済事業者と連携することで自動的に支出管理ができるアプリ)等の提供事業者との連携も検討する

地域におけるキャッシュレス決済の長期的なインセンティブ創出につながるモデル事業の設計を行い、決済・購買情報等の活用による地域経済の活性化に貢献する

長期的なインセンティブの創出に向けたモデル事業の設計



地域スーパーにおける利用者の買い物行動・購買等のデータを分析する。分析結果を活用し、買い物難民候補を特定することで、課題解決策の創出を図る

生活支援モデルの概要 1/2

生活支援モデルの目的は、潜在的な買い物難民の特定、および各種対策案の実現可能性を検討するためのデータを取得することである

実証事項

買い物バスの乗車情報、地域スーパーでの購買情報、アンケート情報について、「紀州財布」*1にて紐づけてデータを取得する

①

現在、ほとんどのお客様が自家用車で来店されている。しかしその中にも潜在的な買い物難民の方がいる可能性がある。試験的に買い物バスを走らせ、会員登録時のアンケートなどを活用し、買い物難民の候補者を特定する

②

会員登録時のアンケートにて、課題への各種解決案に関する関心事項を取得する

③

「紀州財布」*1にて蓄積される決済データ、および地域スーパーから取得した購買データは、各種課題解決に向けた実現可能性の検討のためのデータとする

*1:「紀州財布」とは、「会津財布」をベースとした決済機能を搭載しアンケート機能を追加したiOSアプリである

特定された買い物難民候補に対し、買い物バスや移動販売など、店舗販売以外の新たな買い物支援策の企画立案につなげる

生活支援モデルの概要 2/2

実証場所

- ・ 地元スーパー(オークワ様)を1店舗特定し、その近辺に買い物バスを走らせる
- ・ 地元スーパー・地元自治体等との協議に基づき、複数店舗へのバス停車も検討中(例:パビリオンシティ田辺店様にて実証を実施し、バスはオーシティ田辺店様にも停車)



地域貢献

- ・ 本実証により、潜在的な買い物難民を見える化する
- ・ アプリへの会員登録時アンケートにて、利用者の買い物支援策のニーズを吸い上げる
- ・ 紀州財布にて蓄積された決済データ、地域スーパーから取得した購買データ、および個人属性データとの紐づけをデータ基盤で行う

実現できること

- ・ 潜在的な買い物難民を特定できる
- ・ 買い物難民のニーズを把握できる
- ・ 買い物難民の各種データを蓄積できる

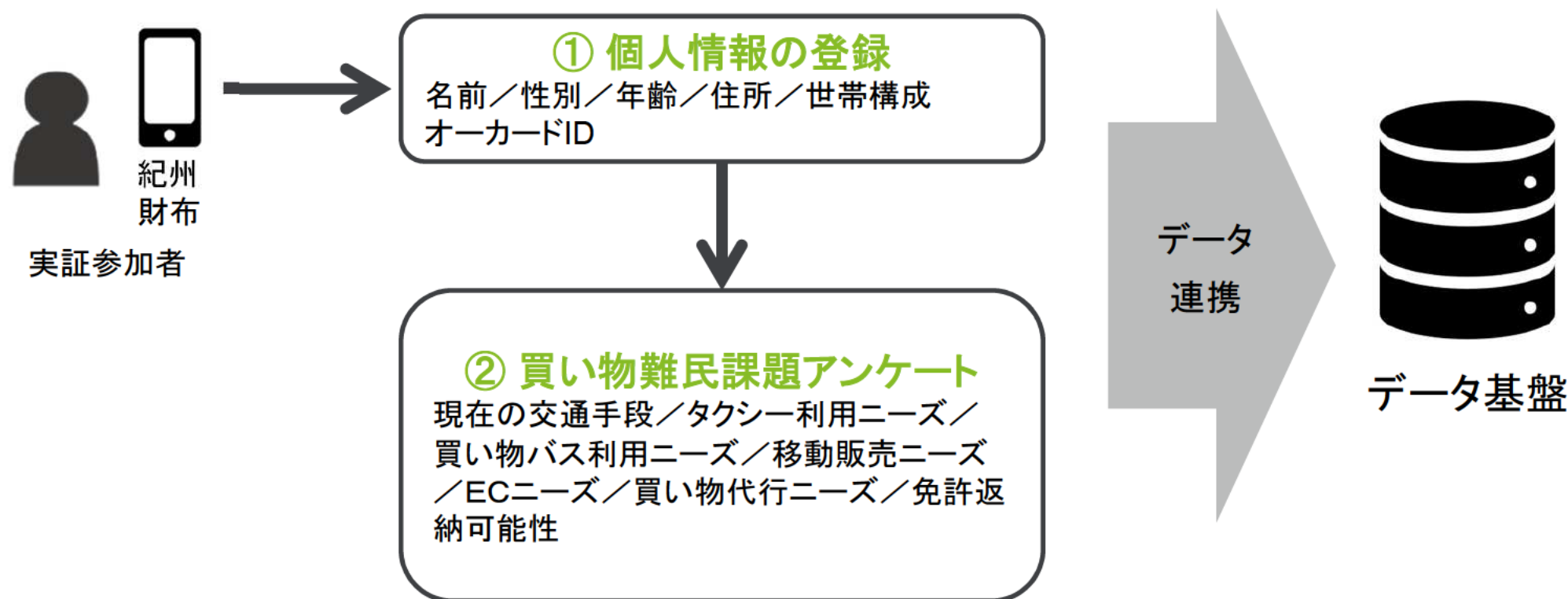
実証後の展開

- ・ 特定された買い物難民のニーズや、各種データをもとに、各種課題解決案の具体的な検討が可能となる
 - ・ 例: 買い物バスや、移動販売など店舗販売以外の新たな買い物支援策の企画立案
- ・ 本実証の実績および蓄積されたデータの利活用により、それらの解決策(案)の実現可能性検討が早期に実現できる

STEP1:実証参加者は、①個人情報の登録を行い、②買い物難民アンケートに回答することで、データ基盤に参加者の属性データを蓄積する

実証の流れ・イメージ 1/3

STEP1:紀州財布への会員登録

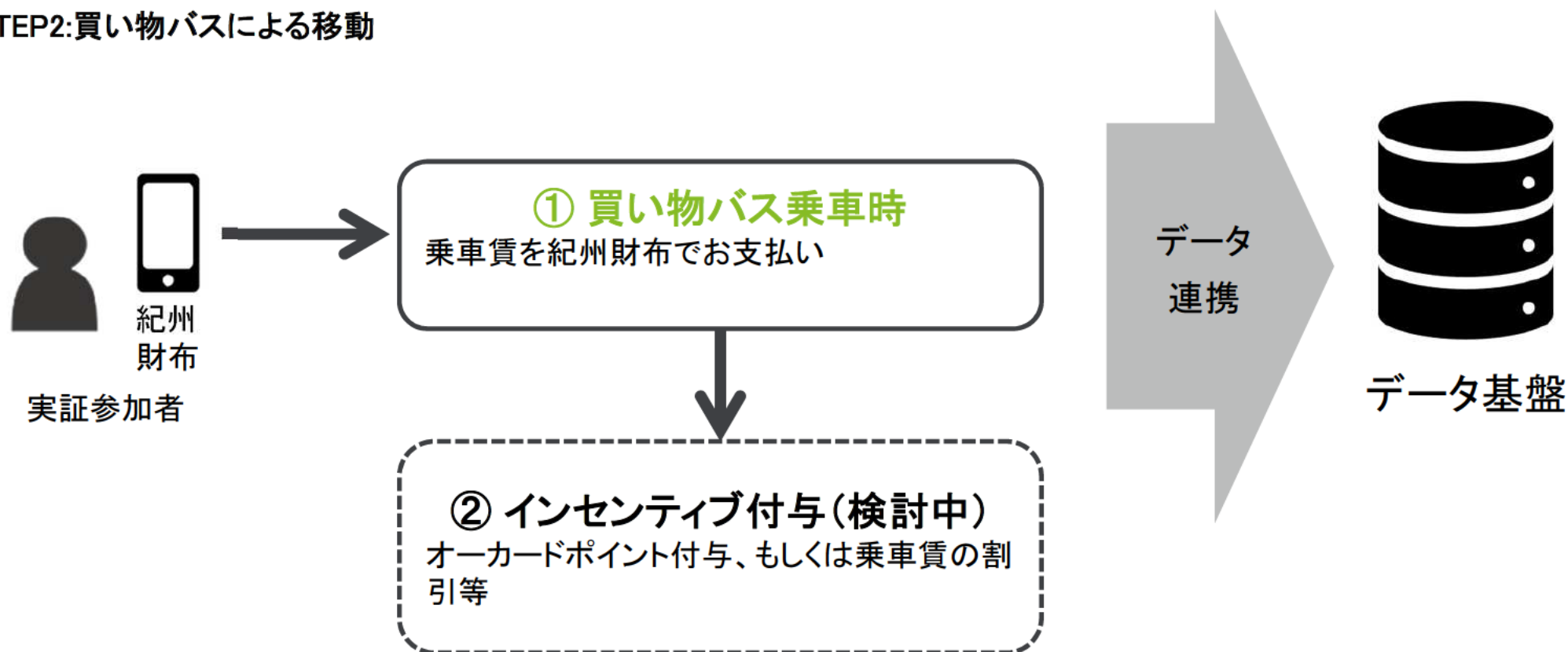


※個人情報の利活用に関する実証参加者からの同意取得方法については、〇〇財布の登録時の規約に共同利用者・利用目的などの必要情報や、決済情報とその他購買情報等の紐づき等を全て記載の上、同意頂けた方のみ利用できる方法を検討中。実証参加者が、〇〇財布の登録後に利用許可を撤回する方法については、実現方式を検討中である。

STEP2: 実証参加者は、①買い物バスへの乗車時に、乗車賃を紀州財布にて支払う。
その後、買い物バスにて店舗に移動する

実証の流れ・イメージ 2/3

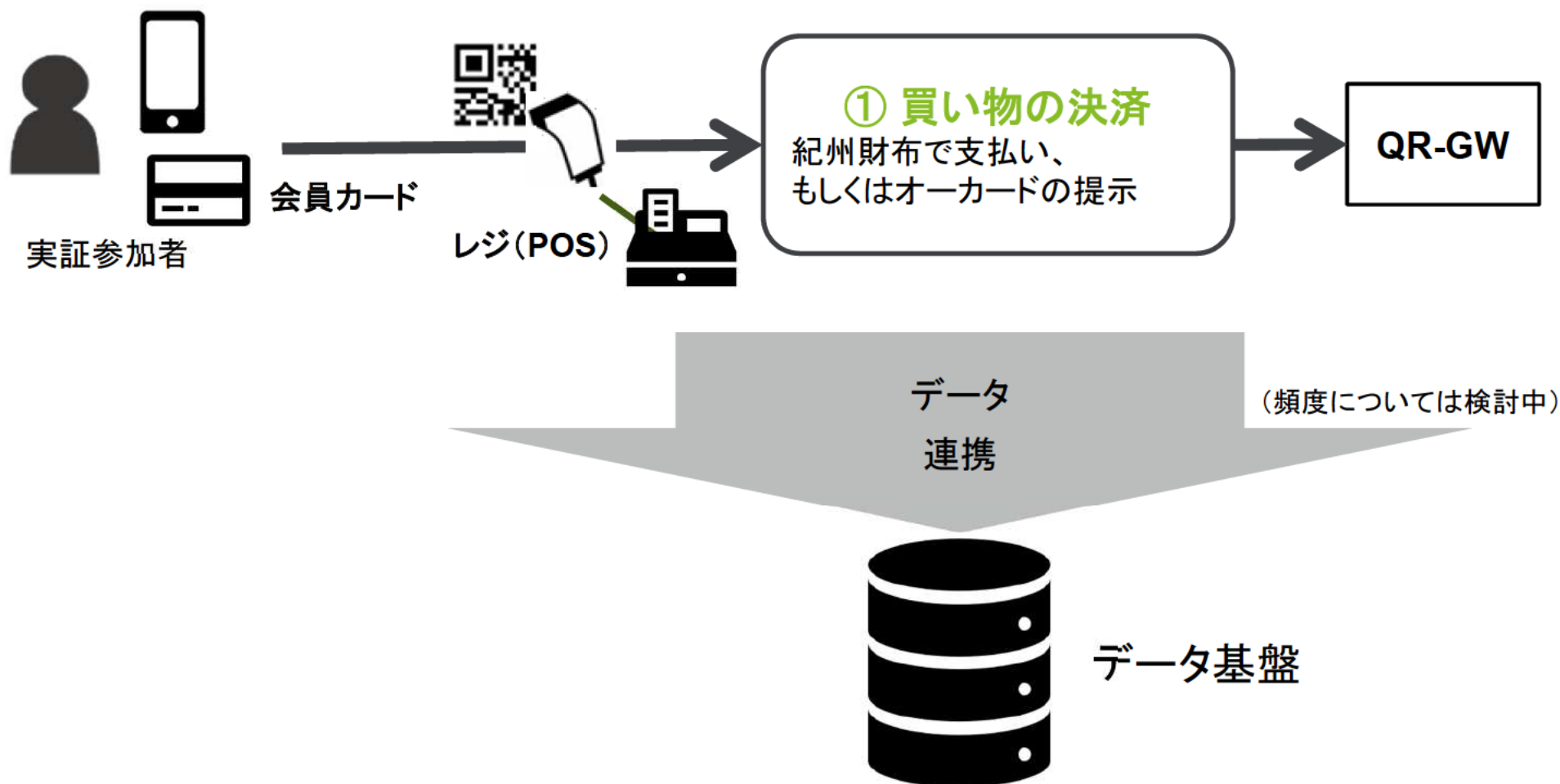
STEP2: 買い物バスによる移動



STEP3: 実証参加者は、①紀州財布の使用もしくはオーカード*1の提示にて買い物を
実施し、データ基盤に決済データと、購買データが蓄積される

実証の流れ・イメージ 3/3

STEP3:購買データの蓄積



*1:オーカードは、オークワ様で使用可能なポイントカード

観光客の決済データを分析し、観光客の動態把握と属性情報に基づいた店舗レコメンドの推測を実施する

観光支援モデルの概要 1/2

観光支援モデルの目的は、観光客の決済データを分析することで周辺経済への効果を把握し、観光客の属性データを蓄積・利活用することで、個人の属性情報にマッチした店舗をリコメンドする推測の精度向上や新たな観光客を誘引する仕掛けづくりの検討に活かすことである

実証事項

観光客の属性情報や、観光資源・周辺店舗における決済情報、立ち寄り情報、周辺店舗の属性情報について、「秩父財布」*1を活用しデータを取得・紐づけを実施する

①

札所巡りのイベント(札所スタンプラリー)を実施する。イベント参加に伴うアプリへの会員登録時に、属性情報を取得する

②

観光客が札所を参拝する。札所が実施している募金活動に対し、秩父財布で寄付を実施する。行動履歴や属性情報などの各種データに基づき、アプリが周辺店舗の中から個人の属性情報にマッチした店舗を推測し、リコメンドを実施する

③

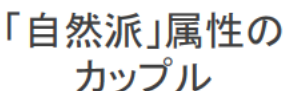
札所の次に訪問された過去の実績が多い店舗を、アプリがリコメンドする

*1:「秩父財布」とは、「会津財布」をベースとした決済機能を搭載し、スタンプラリーイベントのWebアプリを接続させたiOSアプリである

観光支援モデルの概要 2/2

秩父札所34か所、および周辺のちちぶエフエム加盟店様(約100店舗)

蓄積したデータを活用し、観光資源や周辺店舗において改善を図る検討などに活かす。データの蓄積と分析を繰り返すことで、推測精度の向上やデータ利活用の仕組みを地域に実証事業として実装し、地域活性化に活用する



大慈寺周辺の近隣店舗において、ちちぶエフエム加盟店様で「カップル向き」「自然派」タグの付いている店舗について、「自然派」属性のカップルが訪問をしたいとアプリが推測し、レコメンドする

レコメンドされた店舗にカップルが実際に訪問する
精度の向上を図る

過去に大慈寺に参拝した人が訪れた実績のあるちちぶエフエム加盟店様(動態実績のデータ利活用)

会津財布利用者の決済データを分析する。分析結果を利活用し、地域交通における相乗りタクシーの利用促進・用途分析・配車最適化の検討を実施する

交通支援モデルの概要 1/2

交通支援モデルの目的は、決済データを利活用し、交通機関（本実証では相乗りタクシーを想定）の最適化を図るとともに、相乗りタクシーのビジネス成立の可能性を検証し、地域交通の利便性向上を図ることである

実証事項

相乗りタクシーのビジネスを成立させるためには、相乗りタクシーの「利用促進」「用途分析」「配車最適化」が、決済データの利活用でどのように実現できるかを検証する

①

郡山駅前停留所の高速バスチケット売り場にて往復バスチケットを買った人に対し、相乗りタクシーの利用を促す。割引クーポンを発行することで、会津若松バスターミナルに到着後、相乗りタクシー成立の可能性を探る。また目的地データを分析することで、相乗りタクシーの利用用途を推測する。短い時間での効率的な配車最適化についても検討する

②

若松駅前バスターミナル停留所の高速バスチケット売り場にて、往復バスチケットを買った人に対し割引クーポンを発行することで、会津若松に戻ってきた際の相乗りタクシー利用の可能性について、その動向を確かめる。早めの予約を促し、配車の最適化を検討する

③

会津若松バスターミナル停留所内に併設されている売場にて、何かしらの商品を決済した人に対し相乗りタクシーの割引クーポンを発行することで、相乗りタクシーの見込み顧客となりえる可能性について、その動向を確かめる。また相乗りタクシーの利用まで時間的制約がある場合の、配車最適化について課題出しを行う

若松駅前バスターミナルを中心に、クーポンの発行など決済データの利活用を実施し、地域交通における相乗りタクシーのビジネス成立の可能性を検討する

交通支援モデルの概要 2/2

実証 場所

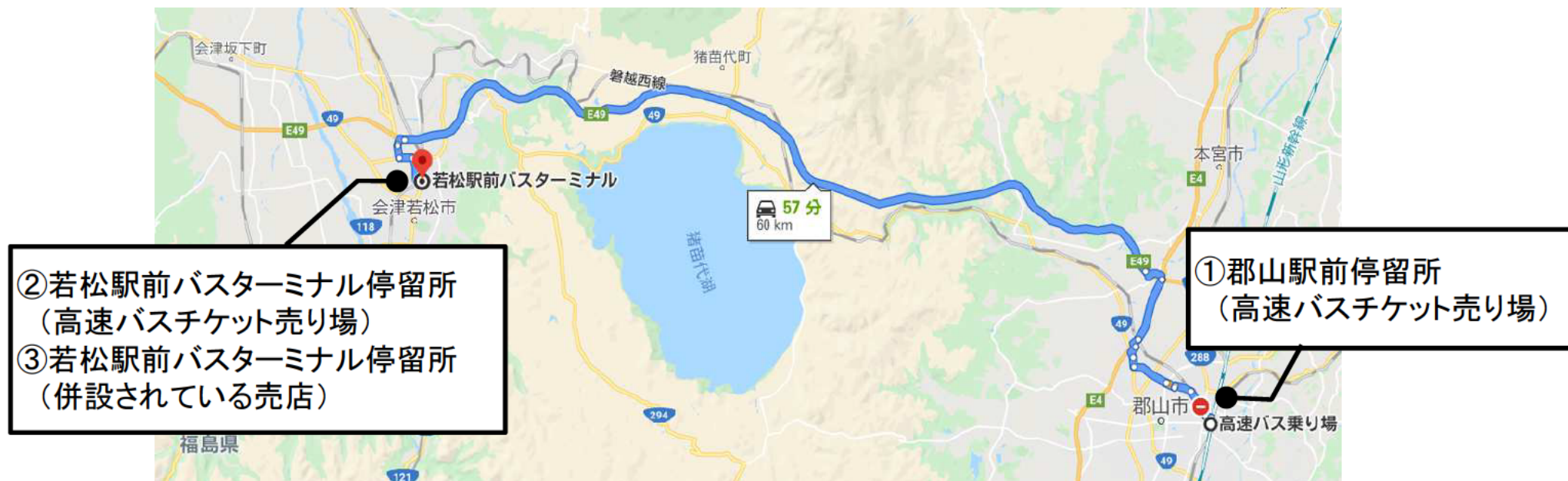
相乗りタクシーの発着場所である若松駅前バスターミナルを中心に下記を想定

- ①郡山駅前停留所（高速バスチケット売り場）
- ②若松駅前バスターミナル停留所（高速バスチケット売り場）
- ③若松駅前バスターミナル停留所（併設されている売店）

地域 貢献

決済データを利活用し、交通機関（本実証では相乗りタクシーを想定）の最適化およびビジネス成立の可能性を検討し、地域交通の利便性向上に活かす

会津財布にて決済を実施した人に対し、相乗りタクシー利用をリコメンドする



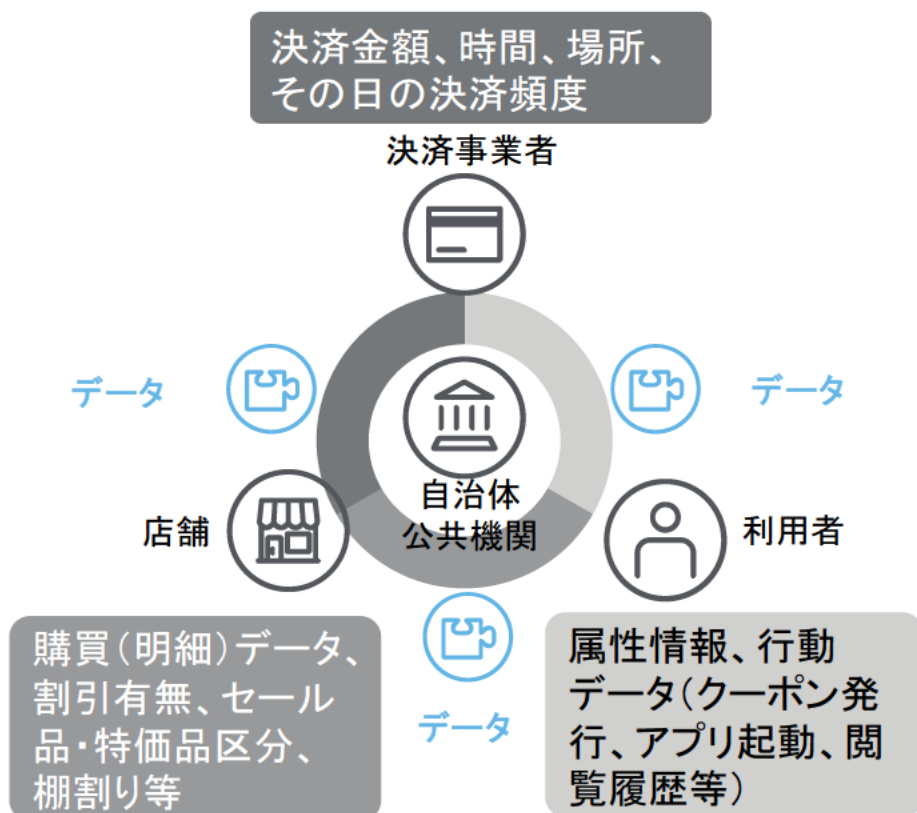
3. 他地域における決済情報等の利活用にかかる ガイドライン等の作成について

決済情報の価値ある利用実現に向け、モデル事業の結果を基に、他地域における決済情報等の利活用を試みる際の参考となる汎用的なガイドライン等を作成する

他地域における決済情報等の利活用に関するガイドラインの作成

モデル事業による実証

- データが繋がり還流し、地域活性化に向け利活用される
- 地域課題の解決など、地域経済の好循環につながる

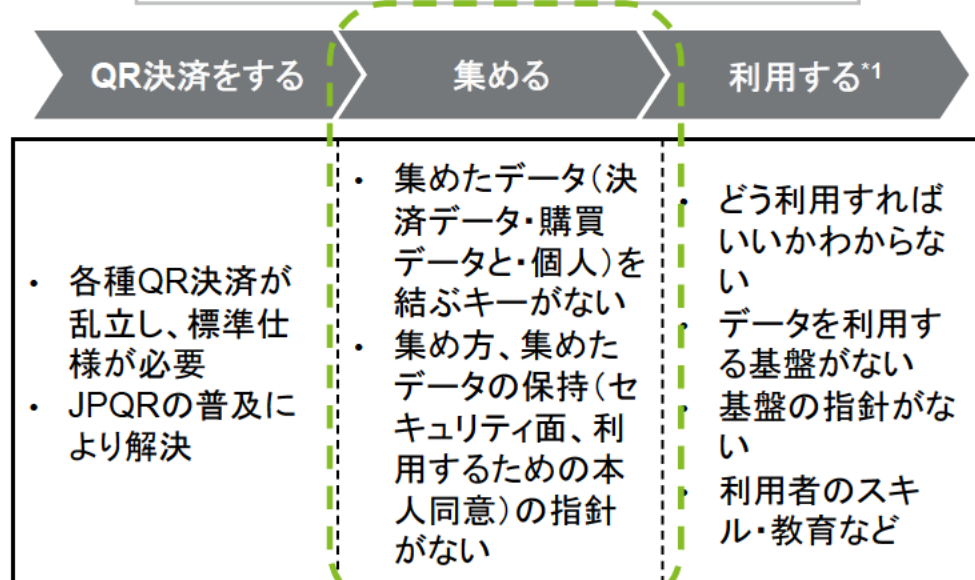


*1: 利活用の事例を蓄積することで今後別途ガイドライン化していく箇所(本調査のスコープ外)

他地域における決済情報等の利活用にかかるガイドライン等の作成

- モデル事業にて仮説を検証し、横展開が可能なガイドラインを作成する
- 検証結果を踏まえ、仮説に工夫が必要な場合は、それらの状況を踏まえて横展開の指針を作成する

課題と作成するガイドラインのスコープ



決済事業者等からの決済情報取得にかかる標準ガイドライン

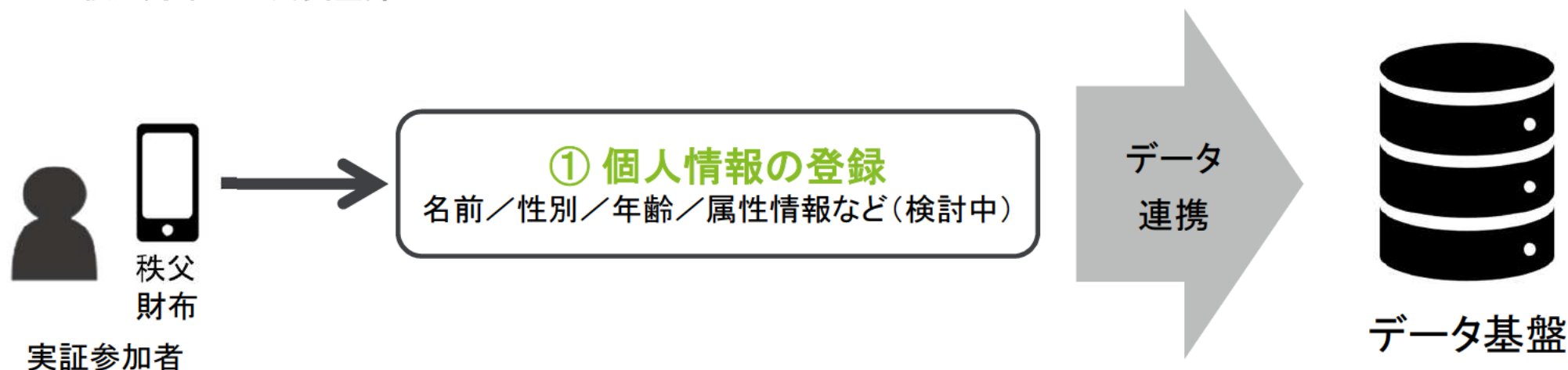
決済情報や購買情報の取扱に関するガイドライン

Appendix

STEP1:実証参加者は、①個人情報の登録を行い、データ基盤に参加者の属性データが蓄積される

実証の流れ・イメージ 1/2

STEP1:秩父財布への会員登録

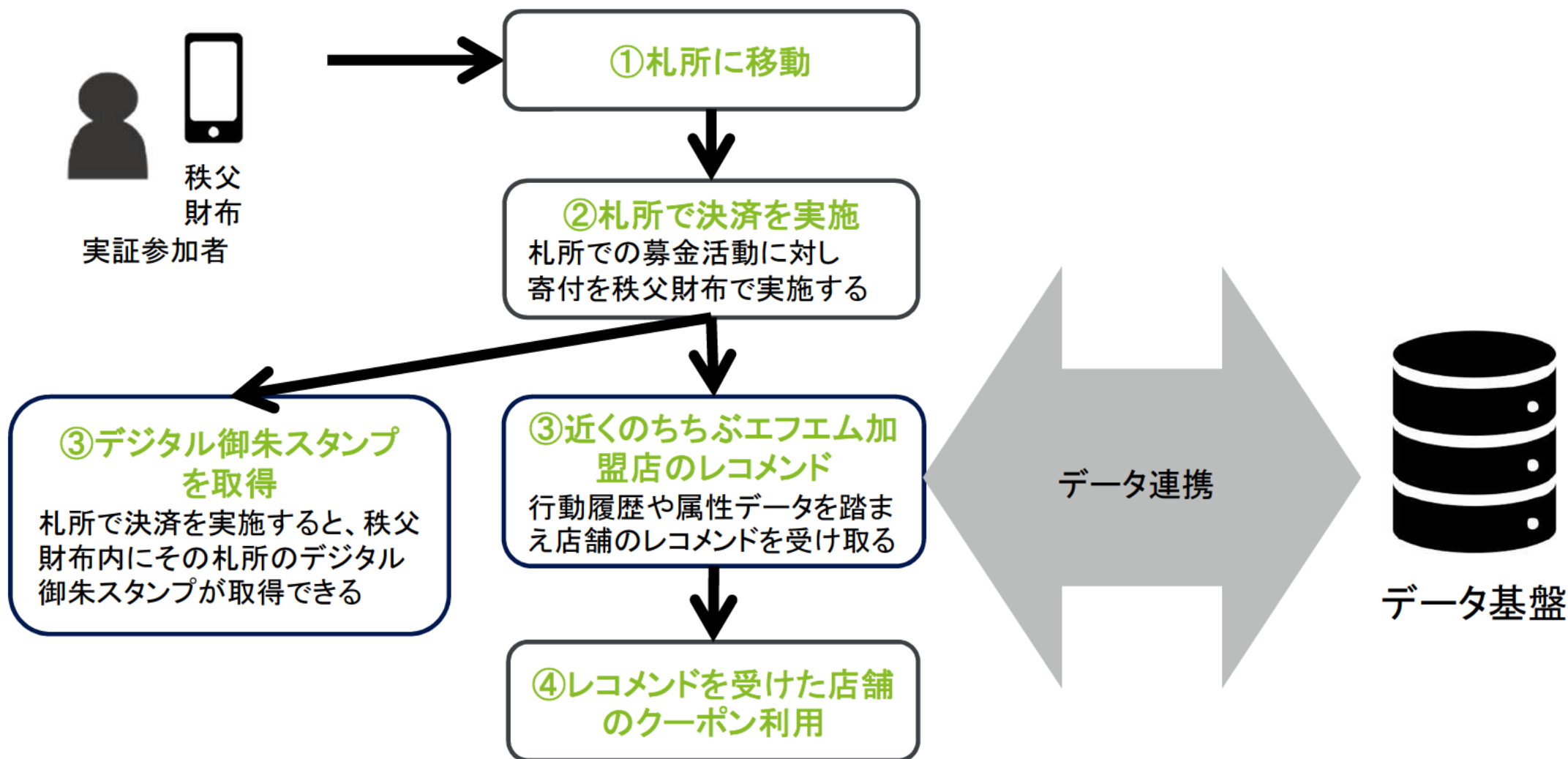


※個人情報の利活用に関する実証参加者からの同意取得方法については、〇〇財布の登録時の規約に共同利用者・利用目的などの必要情報や、決済情報とその他購買情報等の紐づき等を全て記載の上、同意頂けた方のみ利用できる方法を検討中。実証参加者が、〇〇財布の登録後に利用許可を撤回する方法については、実現方式を検討中である。

STEP2: 実証参加者は、①札所に移動し②募金活動の決済を実施する。③特典受領とともに、③近辺の店舗のレコメンドをアプリから受け取り、④クーポンを使用できる

実証の流れ・イメージ 2/2

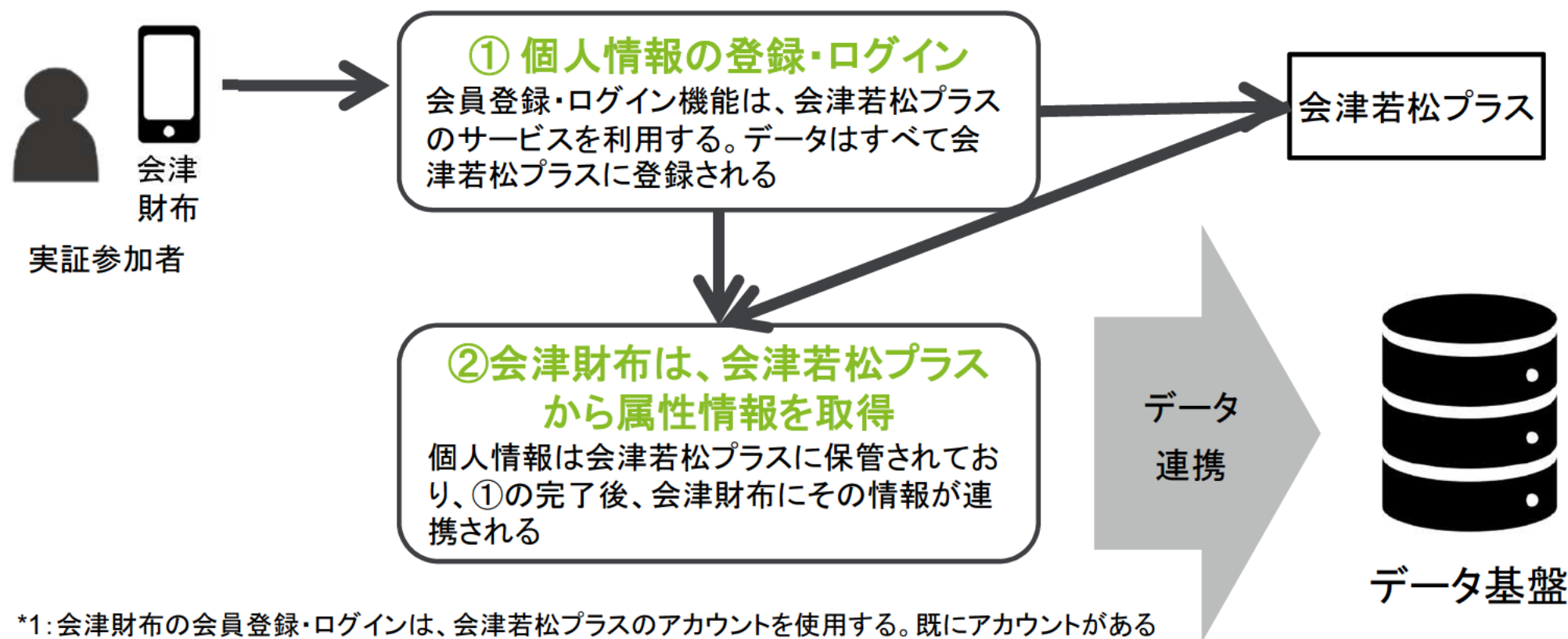
STEP2: 札所での決済およびアプリからのレコメンド



STEP1: 実証参加者は、①個人情報の登録・ログインを行い*1、②会津若松プラスから属性情報を取得することで、データ基盤に参加者の属性データが蓄積される

実証の流れ・イメージ 1/3

STEP1: 会津財布への会員登録・ログイン



*1: 会津財布の会員登録・ログインは、会津若松プラスのアカウントを使用する。既にアカウントがある場合は、新規登録せずにログインのみとなる。会津若松プラスの既存機能を活用する予定である

※個人情報の利活用に関する実証参加者からの同意取得方法については、〇〇財布の登録時の規約に共同利用者・利用目的などの必要情報や、決済情報とその他購買情報等の紐づき等を全て記載の上、同意頂けた方のみ利用できる方法を検討中。実証参加者が、〇〇財布の登録後に利用許可を撤回する方法については、実現方式を検討中である。

(参考)会津若松プラスのWEBサイトの会員登録機能・ログイン機能を利用し、会津財布アプリ上にて会員登録・ログインを実施する

会津若松プラス

概要

会津若松プラスとは、会津若松市の地域情報ポータルサイトである。行政・地域と市民のコミュニケーション強化を目的とし、データ分析を活用することで、市内外の個々人のニーズやライフスタイル・行動等に合わせた行政や地域の情報・サービスを提供している*1

会津若松プラスPCサイト TOP画面

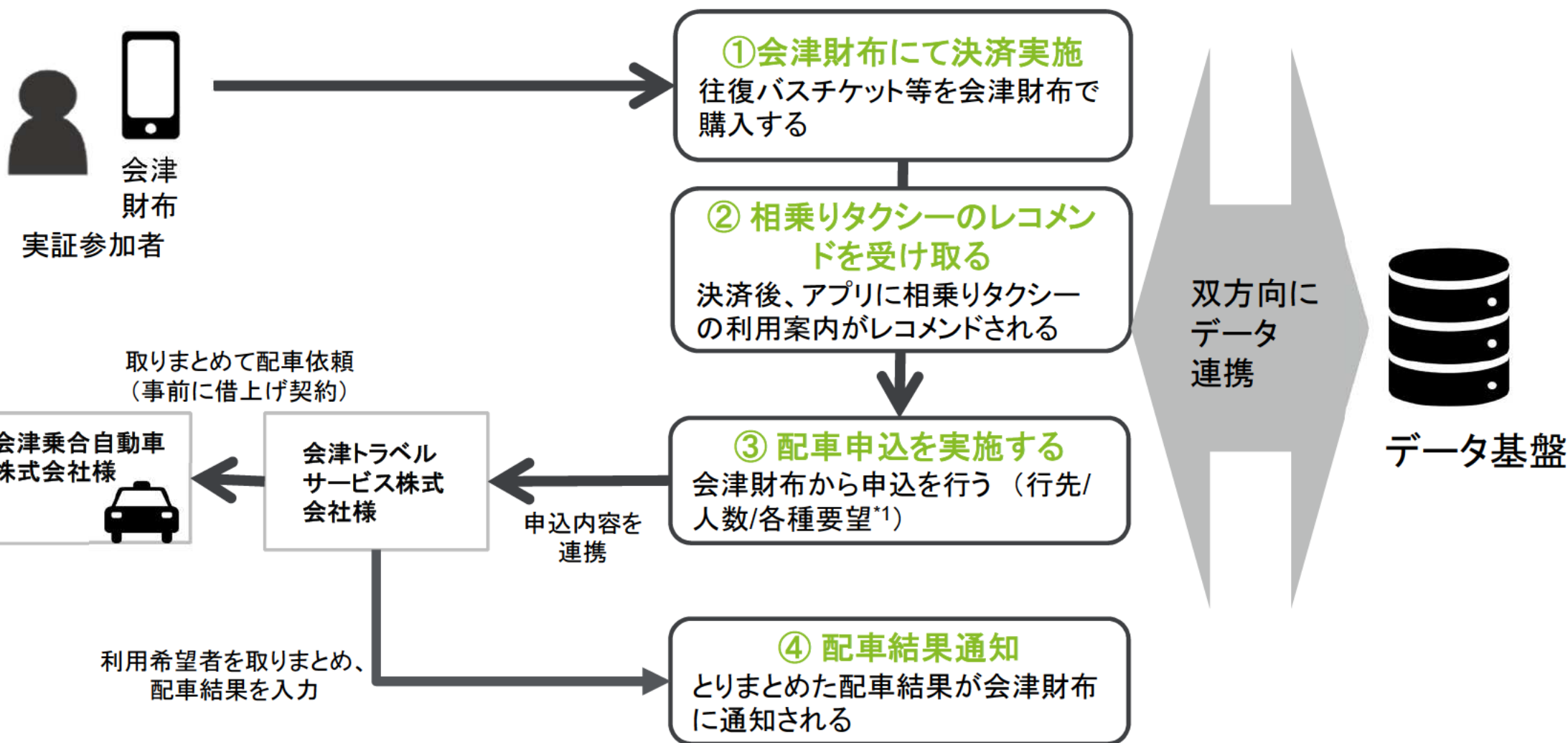


*1: 会津若松プラスHPより抜粋・加工

STEP2: 実証参加者は、①往復バスチケット等を会津財布で決済し、②相乗りタクシーのレコメンドを受け取る。③配車申込の実施後、④配車結果が通知される

実証の流れ・イメージ 2/3

STEP2: 会津財布を使用した相乗りタクシーの配車申込



STEP3: 実証参加者は、①配車された場所に向かい、②相乗りタクシー料金を会津財布にて決済し、③相乗りタクシーを利用する

実証の流れ・イメージ 3/3

STEP3: 相乗りタクシーに乗車し、会津財布による料金決済

